

セーフコミュニティちちぶ 子どもの安全対策委員会



—再認証 事前審査—

発表者：委員長 川田 哲也

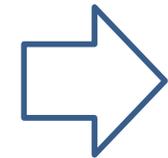
所属：秩父地区PTA連合会

子どもの安全対策委員会設置の背景

①乳幼児の自宅での転倒・転落による救急搬送が多い状況にある。

 背景①

②小・中学生のケガが多く発生している。

 背景②

③子どもの自転車運転中の外傷が多い。

 背景③

④いじめの認知件数が増加する状況にある。

 背景④

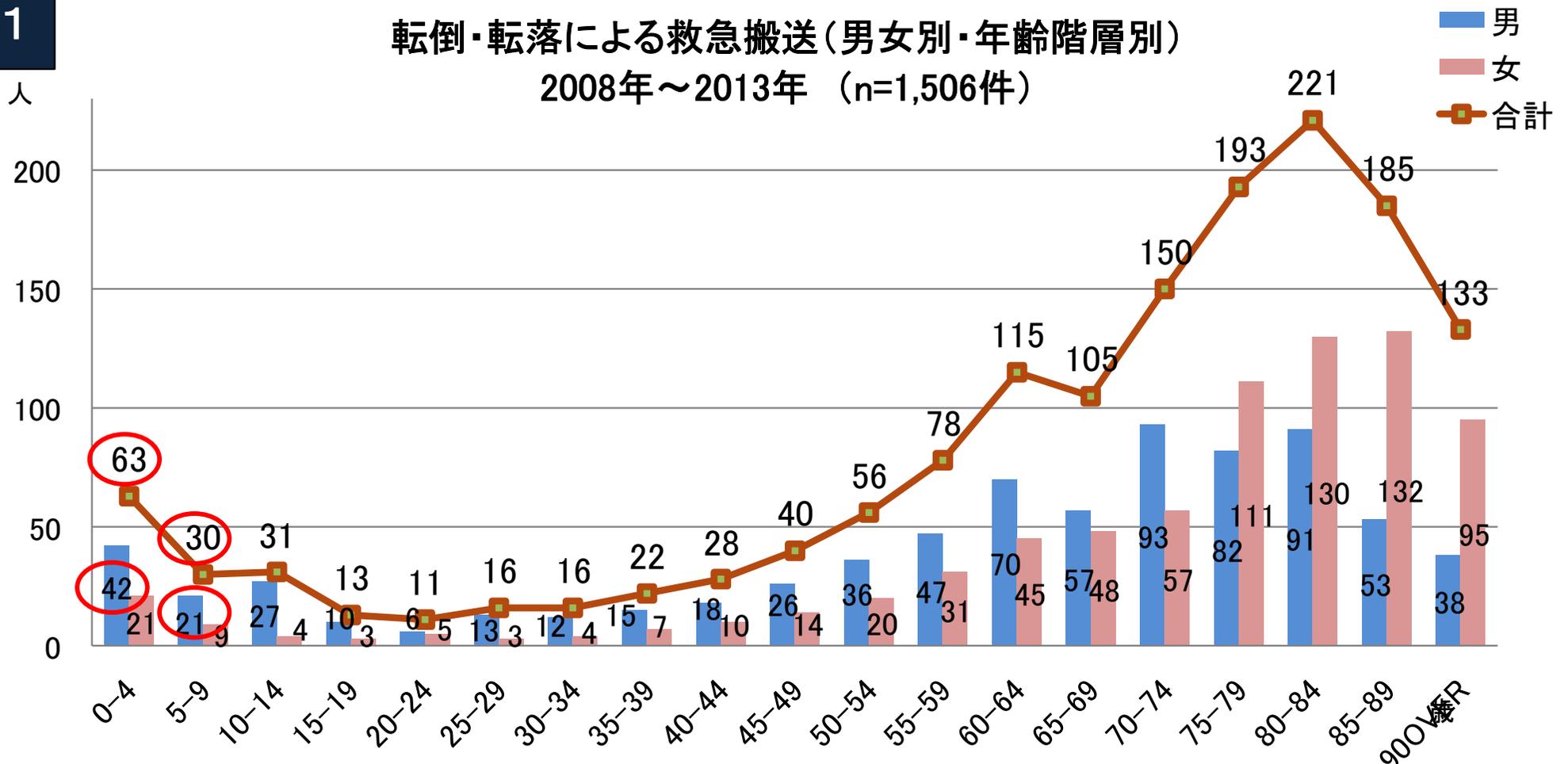
対策委員会設置の背景 ①

転倒・転落による救急搬送件数

乳幼児の自宅での「転倒・転落」による救急搬送が多い。

図1

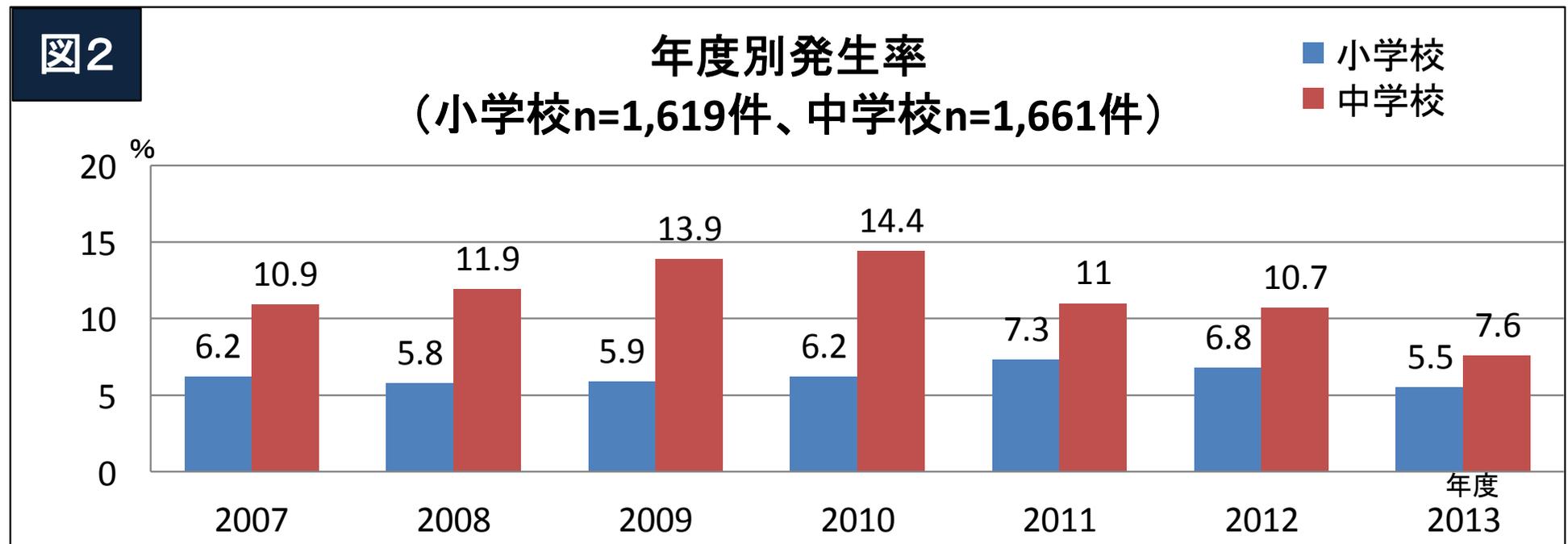
転倒・転落による救急搬送(男女別・年齢階層別)
2008年～2013年 (n=1,506件)



出典: 救急搬送データ(2008年～2013年)

対策委員会設置の背景 ②

小・中学生のケガが多く発生している。



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
発生件数(小学校)	251	229	224	230	260	236	189
発生件数(中学校)	245	258	294	297	220	205	142
小学校児童数	4,047	3,928	3,769	3,684	3,560	3,475	3,408
中学校生徒数	2,240	2,164	2,117	2,057	2,004	1,914	1,858

出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度～2013年度)

対策委員会設置の背景 ③

子どもの自転車運転中での外傷が多い。

＜自転車運転中の外傷＞

5歳～9歳 33.3%

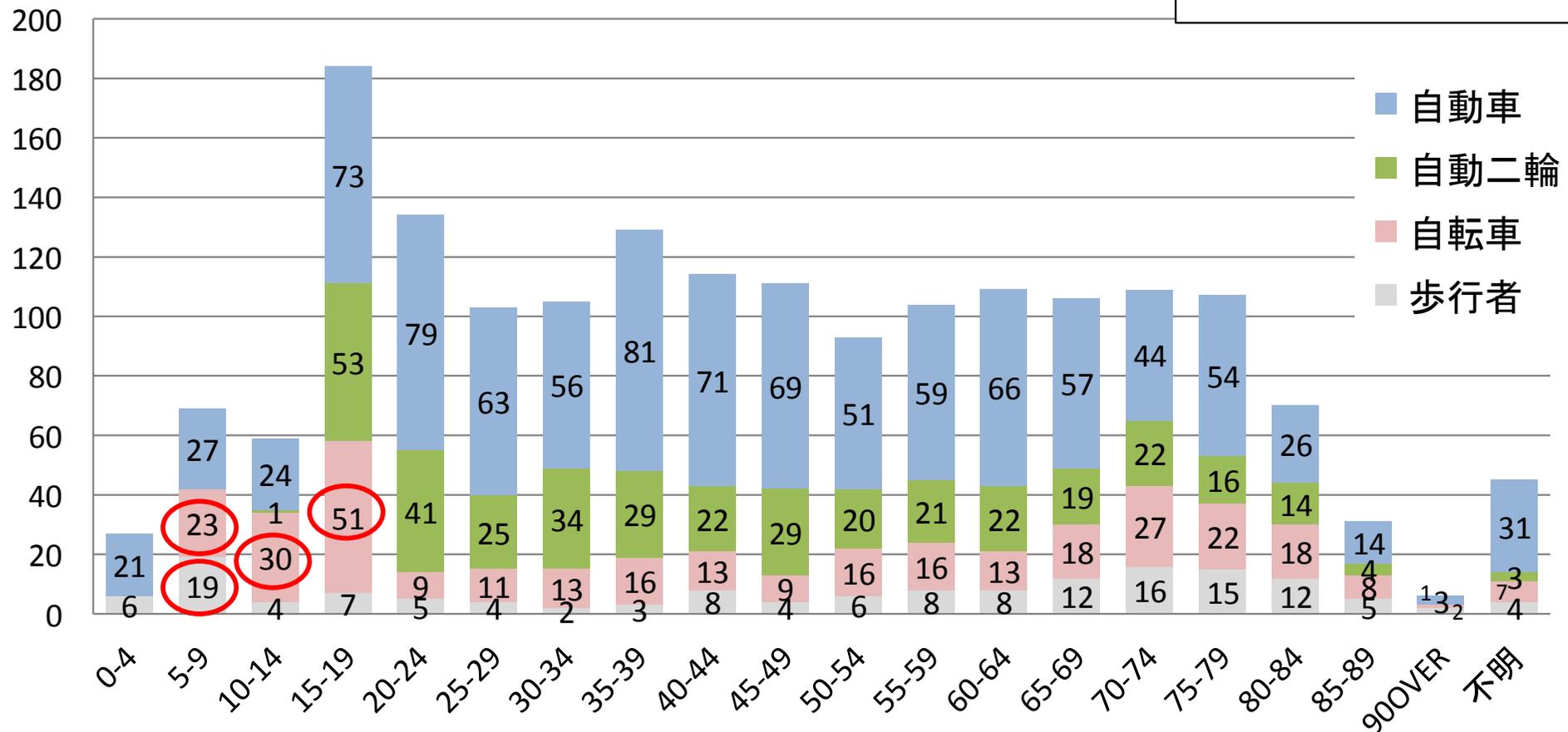
10歳～14歳 50.8%

15歳～19歳 27.7%

＜歩行中の外傷＞

5歳～9歳 27.5%

図3 交通事故による救急搬送の状況 (n=1,815件)



出典：救急搬送データ(2008年～2012年)

対策委員会設置の背景 ④

ネットラブル・いじめの認知状況

いじめの認知件数が増加する傾向にある。

図4-1

ネットラブルの報告件数

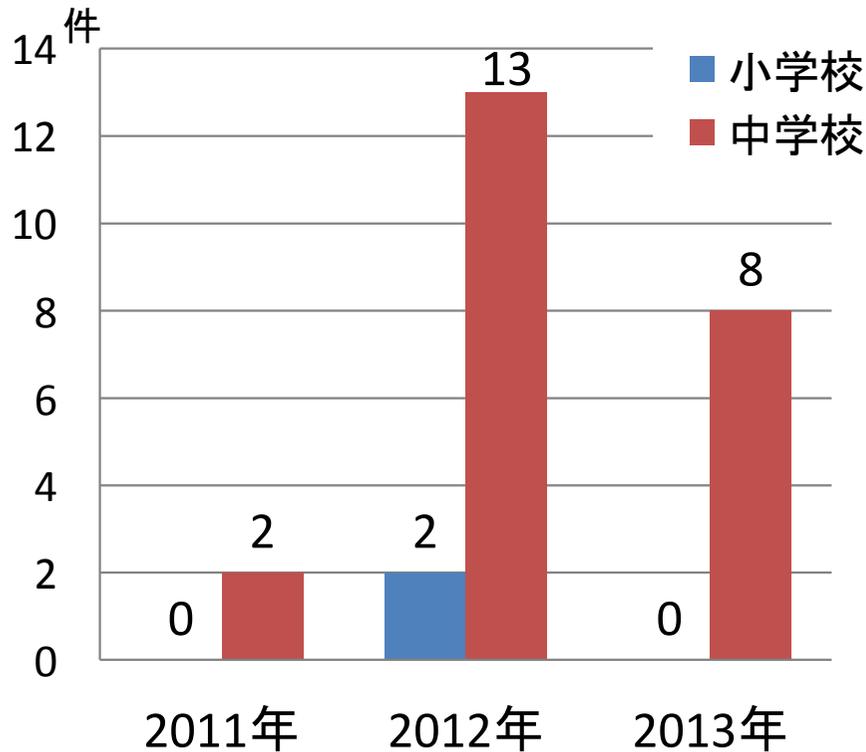
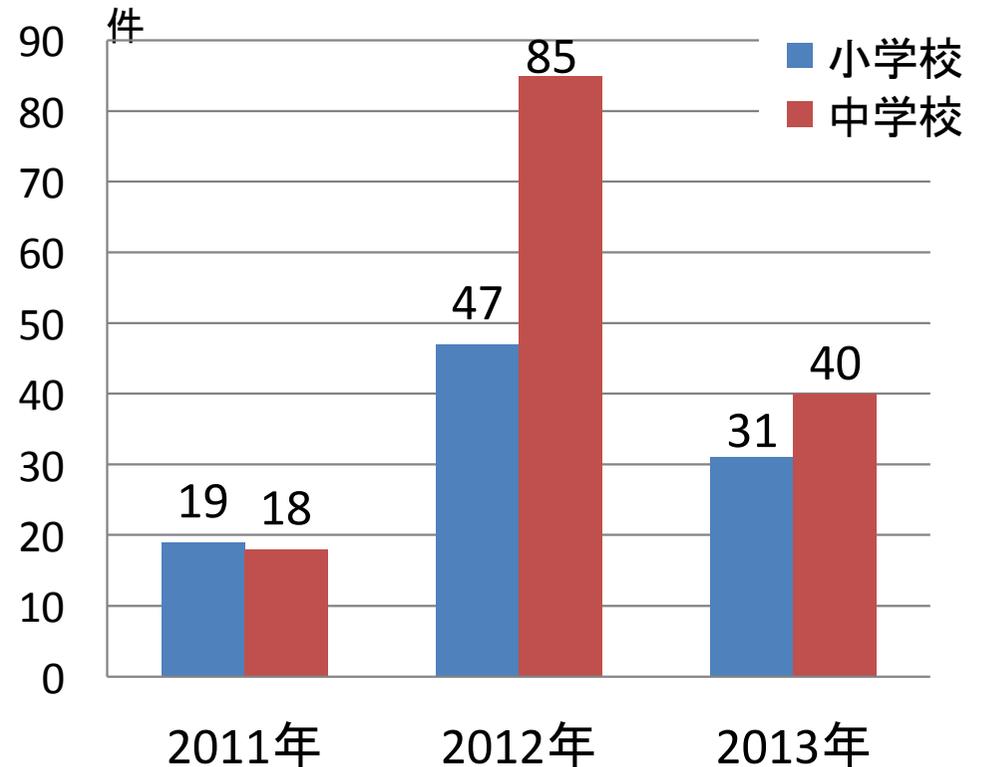


図4-2

いじめの認知件数



出典：非行・問題行動実態調査（2011年度～2013年度）

子どもの安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織 (7)	秩父市町会長協議会	1名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	PTA	4名
	私立幼稚園連合会	1名
教育機関 (10)	学校	3名
	保育所	6名
行政機関 (7)	秩父警察署	1名
	秩父市（こども課、保健センター、教育研究所、公募職員）	6名

子どもの安全対策委員会の経過

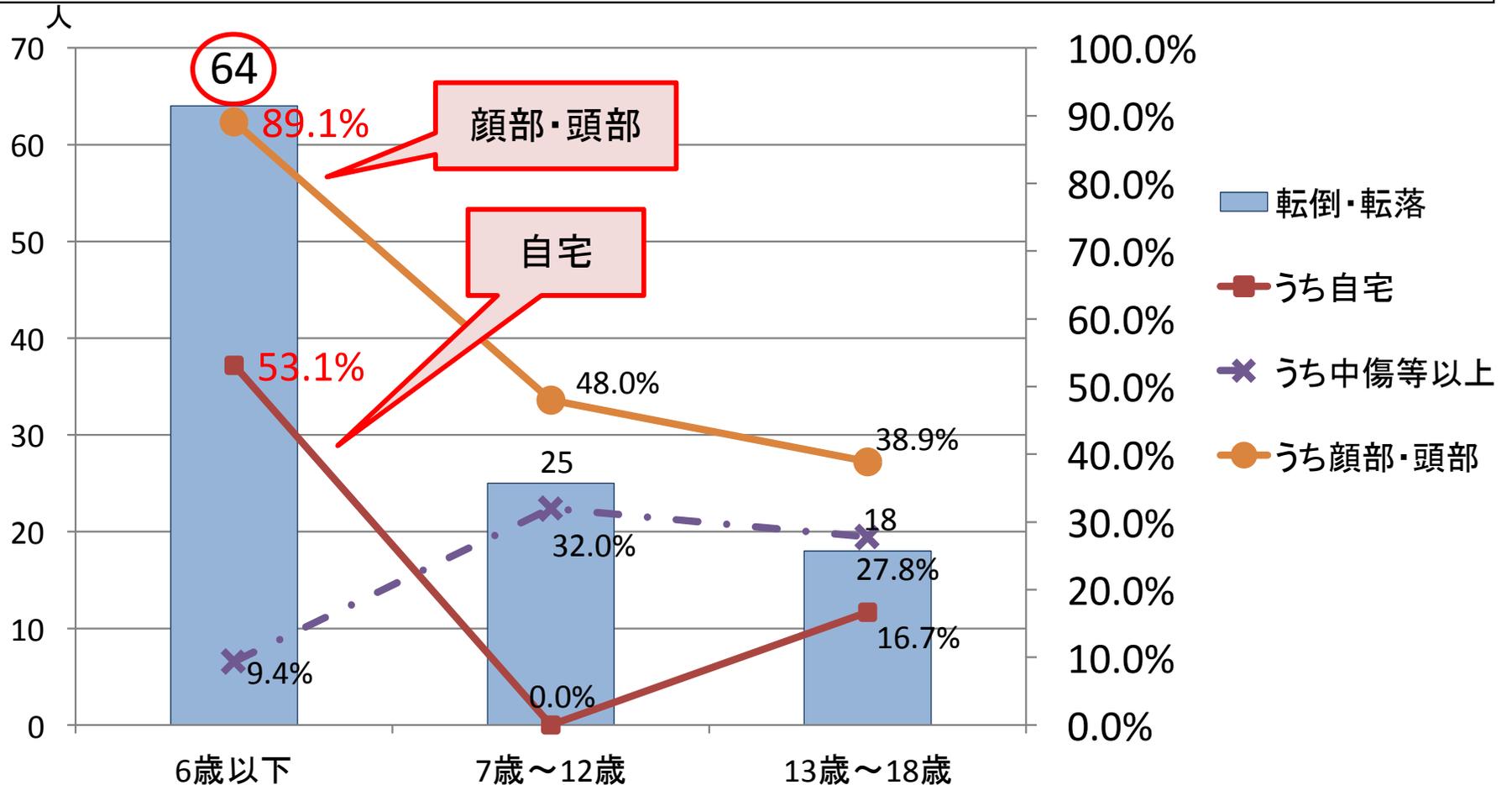
回数	開催日	主な会議内容
第18回 ～ 第30回	2016年 5月 ～ 2019年 5月	取組み①～⑦について協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、 「成果と評価指標」、「アンケートの結果」、「連携強化と 効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」について
	2016年 10月19日	◆SC認証1周年記念イベント（箕輪町SC関係者による講演会 とSC取組み報告）
	2017年 9月10日	横浜市栄区SC事前指導視察
	2017年 11月25日	◆市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ（S C 認証2周年 記念イベント）有識者によるS C分科会等の開催
	2018年 5月 2019年 5月	◆SC講演会（新委員向け研修含む）
	2018年 8月	防犯講演会参加「子どもと地域の安全をどう守るか」
	2019年 2月1日	◆SC事業報告会
第31回	2019年 8月7日	◆「再認証事前審査報告内容の確認」について

データからみた客観的な危険(1)

乳幼児の転倒・転落によるケガ

乳幼児は転倒・転落によるケガが多く、自宅におけるケガ発生が半数となっている。

図5



データからみた客観的な危険(2)

乳幼児の一般負傷の要因

出典: 救急搬送データ(2008年~2012年)

表1

6歳以下の乳幼児が、「転倒・転落」により受傷している件数は64件。自宅で転倒するケースが一番多くなっています。

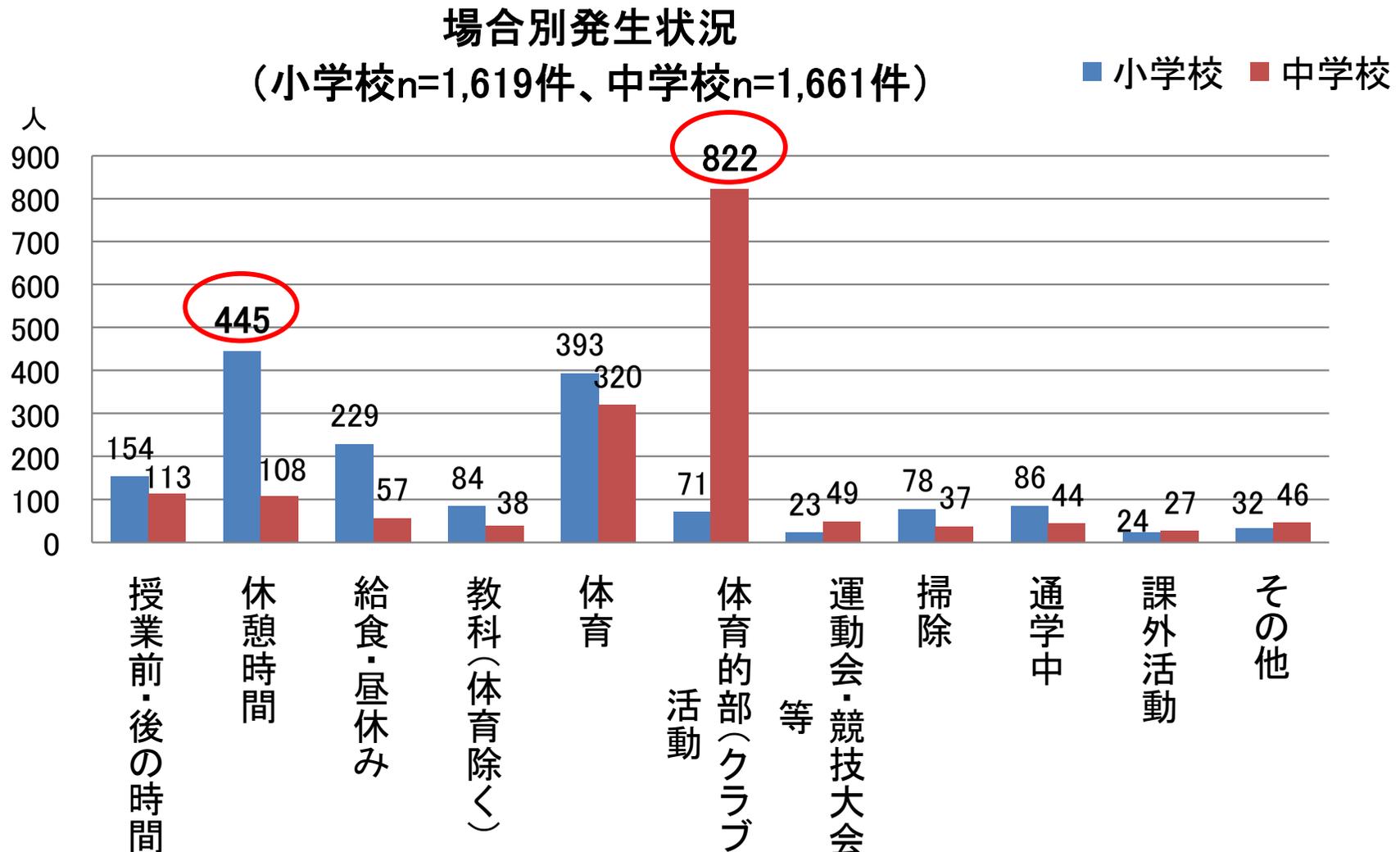
子ども(0歳~6歳)の「一般負傷」の要因									
	鋭利なものとの接触	挟まれ・巻き込まれ	誤嚥による窒息	衝突・接触	転倒	転落	その他	不詳	合計
公衆出入場所	0	2	1	3	8	17	3	1	35
教育施設(幼稚園等)			1		1	3			5
商業施設(スーパー・コンビニ・量販店等)					1	4		1	6
余暇・スポーツ施設				2	4	6	2		14
公共交通(駅・電車・バス等)		1			1	1			3
その他		1		1	1	3	1		7
住居	6	7	7	8	11	24	10	3	76
自宅(屋内)	6	5	7	8	9	18	10	3	66
自宅(屋外)		2			1	6			9
知人宅(屋内)					1				1
道路・駐車場		1			3	1	1		6
不詳								1	1
合計	6	10	8	11	22	42	14	5	118

データからみた客観的な危険(3)

小・中学校における場合別のケガの発生状況

小学校における場合別のケガの発生状況は、「休憩時間」が最も多く、中学校では、「体育的部活動」が最も多くなっています。

図7



出典: 日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度~2013年度)

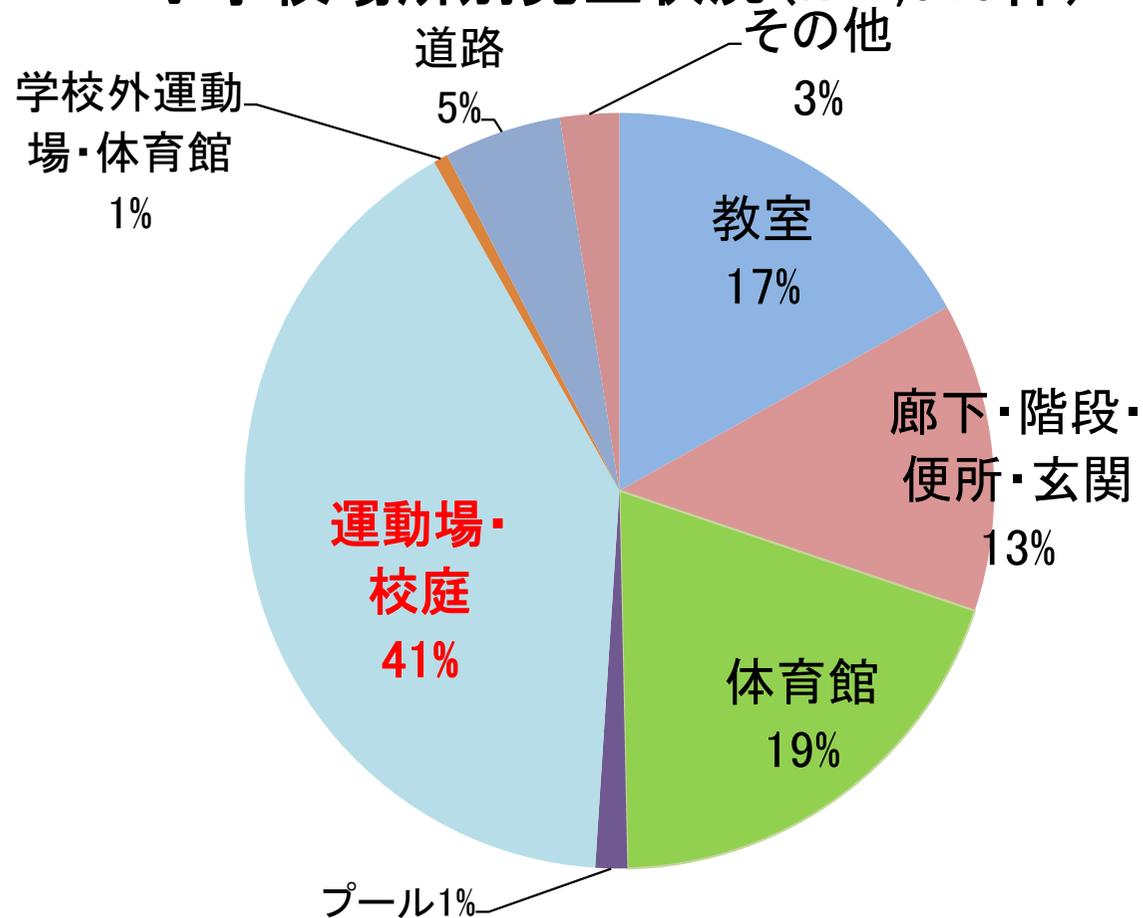
データからみた客観的な危険(4)

小学校におけるケガの場所別の発生状況

小学校における場所別のケガの発生状況は、「運動場・校庭」が最も多く全体の4割以上を占めています。

図8

小学校場所別発生状況(n=1,619件)



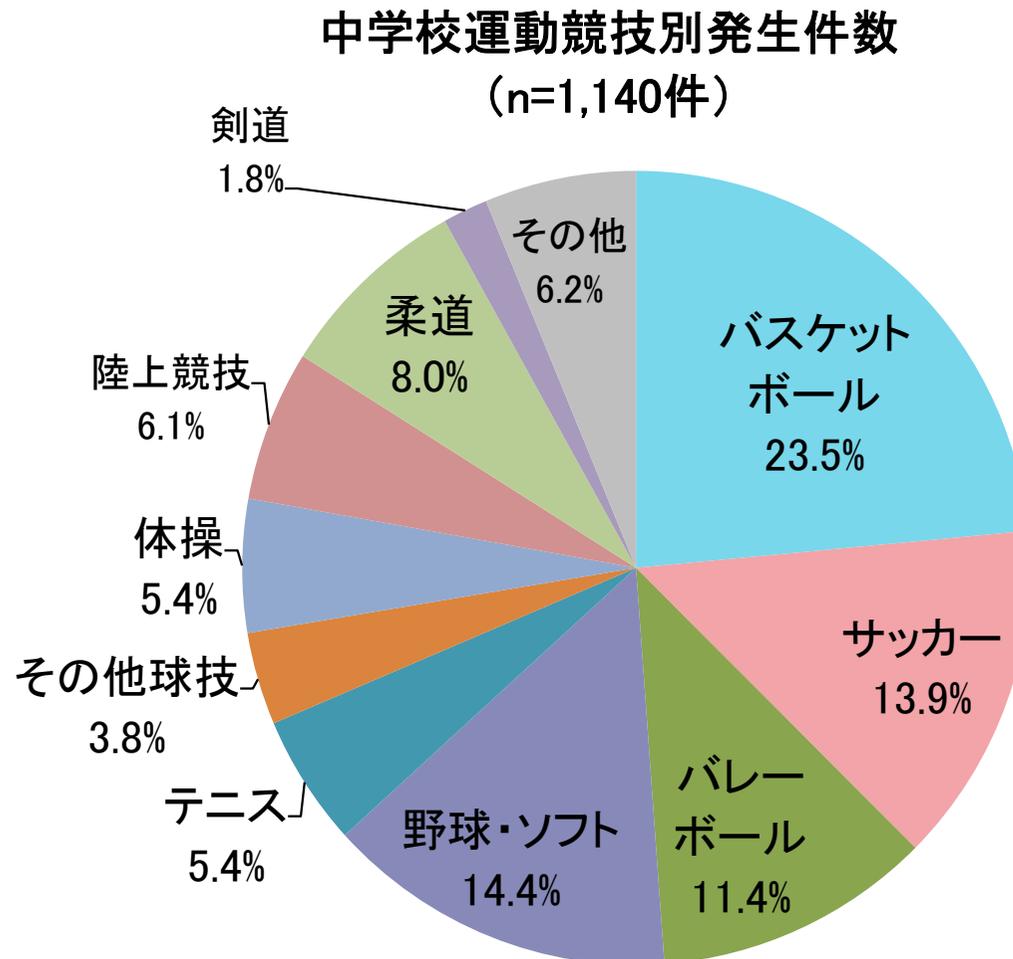
出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度～2013年度)

データからみた客観的な危険(5)

中学校におけるケガの場合別の発生状況

「バスケットボール」が最も多く、次いで「野球・ソフト」、
「サッカー」とケガが多くなっています。

図9



データからみた客観的な危険(6)

ネットトラブル・いじめの認知状況

- ネットトラブル：中学校が多い
- いじめの認知件数：小・中とも減少傾向

図4-1

ネットトラブルの報告件数

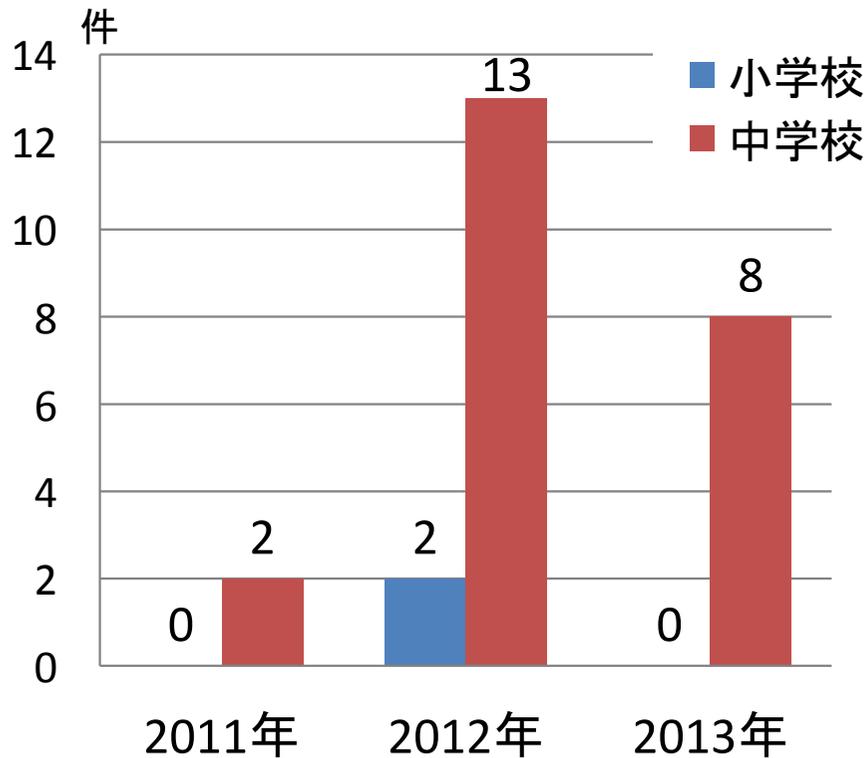
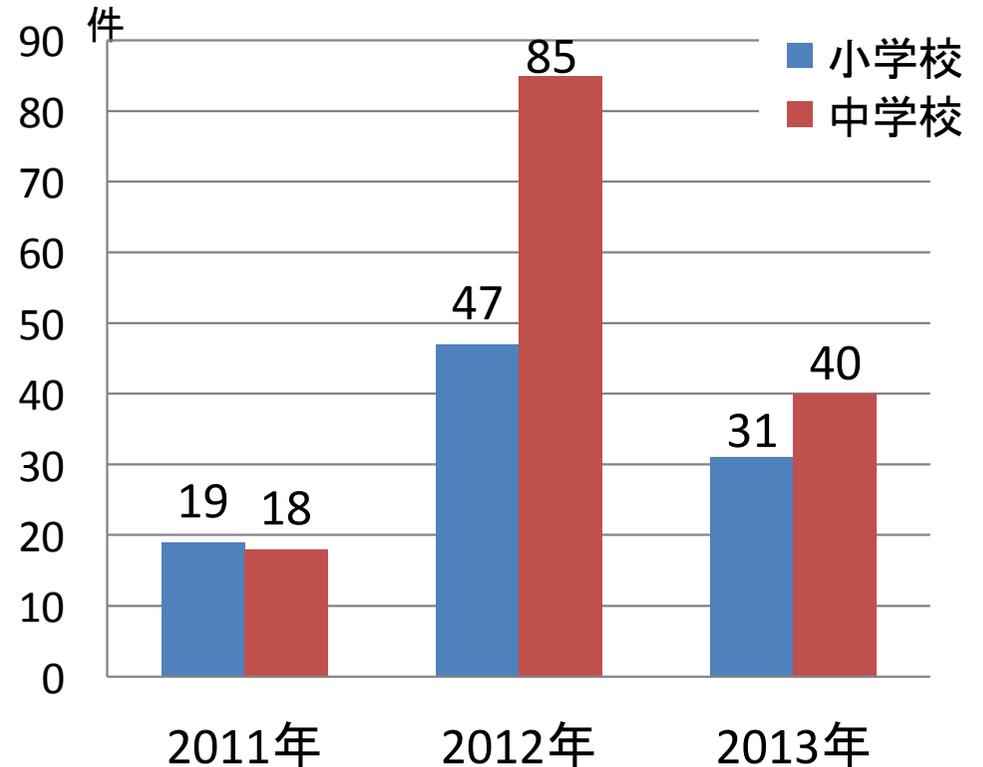


図4-2

いじめの認知件数



出典：非行・問題行動実態調査(2011年度～2013年度)

子どもの安全対策委員会 地域診断による課題の整理

図1

図2

図3

図4-1

図4-2

図5

図6

表1

図7

図8

図9

課題1 子どもはケガが多い

- 学校・保育所・幼稚園や家庭内でのケガが多い
- 中学生は特に部活動でのケガが多い

課題2 子どもの自転車運転中の外傷が多い

- 交通安全マナーが悪くなっている(委員の主観)
- 自転車の事故が多い

課題3 ネットトラブルの増加

- スマホによるいじめが増加している(心配)

課題4 いじめ認知件数の増加

- いじめの認知件数が増加している

課題5 地域のつながりが希薄になっている

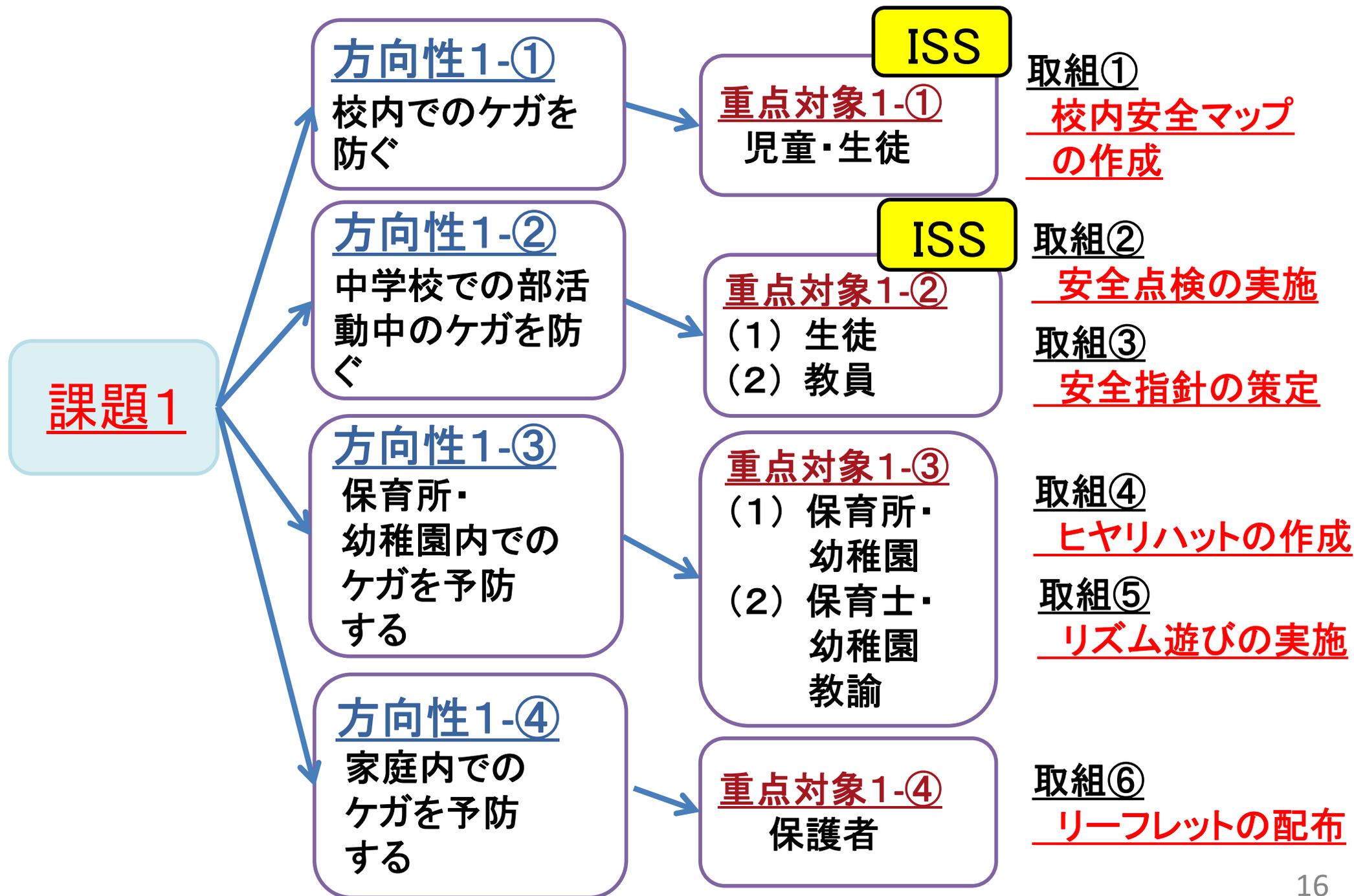
- 地域活動に参加していない保護者が多い

方向性
1

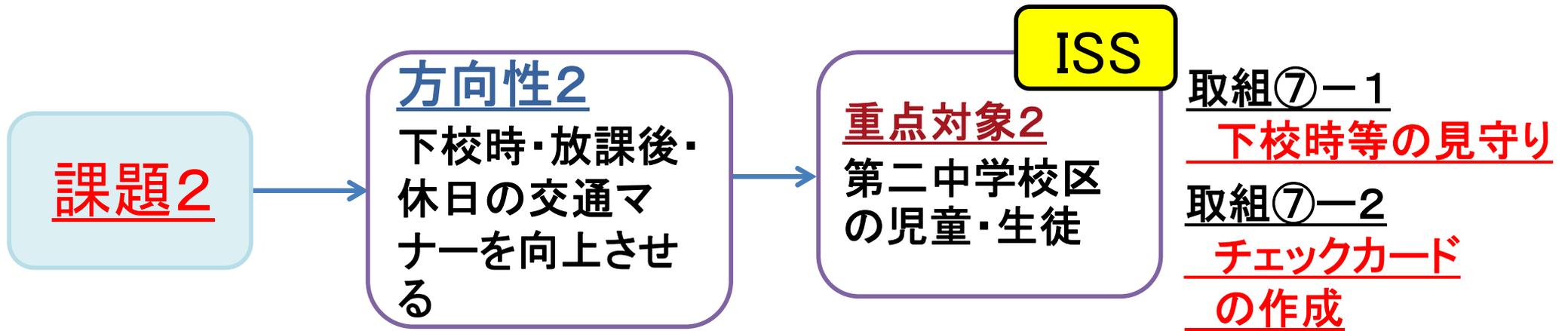
方向性
2

方向性
3

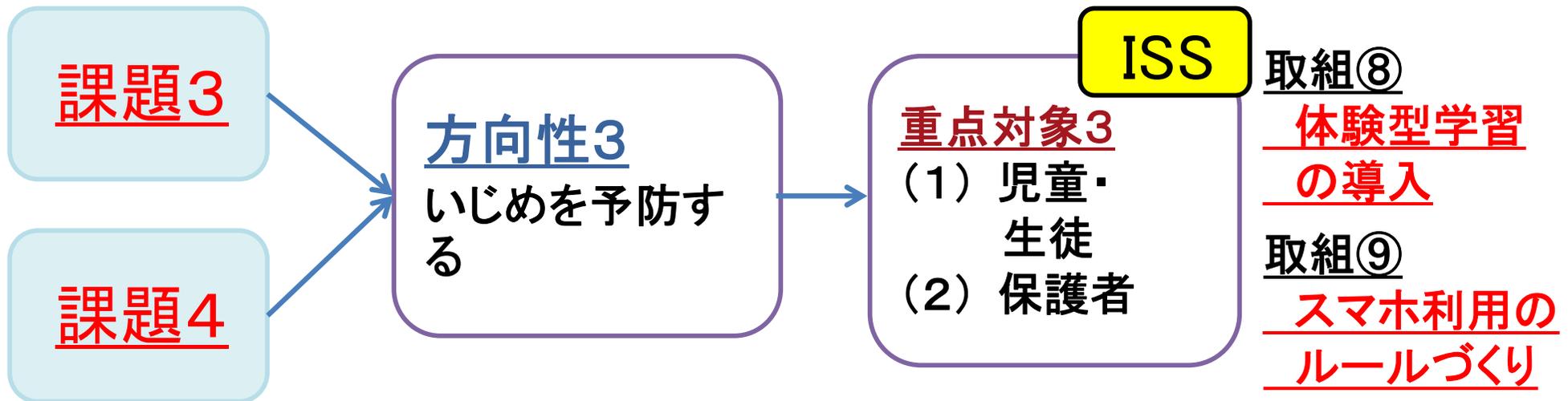
課題、方向性、重点対象、取組の整理①



課題、方向性、重点対象、取組の整理②



※「課題2」については、交通安全対策委員会の取り組みとする



課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
(課題①) 子どもはケガが多い	教育・啓発	◆「健やか親子21」パンフレット	◆子育てハンドブック ◆子育て支援 ◆子どもの健康・相談	対策委員会の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・校内安全マップの作成 ・部活動安全点検、安全指針 ・転倒予防、対応パンフレット作成 ・ヒヤリハット作成 ・体幹トレーニング ・スポーツテスト ・ケガデータの収集、分析 ・危険予測学習
	規制・罰則	教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン		
	環境整備	施設・設備の改善		
			学校事故対応に関する指針	



課題③④に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
(課題③) ネットトラブルの増加	教育・啓発	◆埼玉県いじめ撲滅宣言	◆ライフスキル教育 ◆ISSへの取り組み 対策委員会の取り組み ・いじめアンケートの実施	
	規制・罰則	◆いじめ防止対策推進法	◆秩父市いじめ防止基本方針	
	環境整備			
(課題④) いじめ認知件数の増加				